



《現状把握》

国語と算数の知識・活用のいずれにおいても全国の平均値を上回ったが、学習への関心は2教科とも下回り、算数においては14.1%下回っている。生活状況については、全ての項目で全国平均値を下回った。特に、学習習慣・規範意識・自尊感情・言語活動・生活習慣のポイントが低かった。中でも、「家で、学校の授業の復習をしていますか」という学習習慣についての質問に対し肯定的回答をした児童の割合は全国平均の53.8%に対し、本校は30%という結果となった。

《授業改善のポイント》

- ・国語、算数への関心意欲を高めるために、課題提示の仕方や子どもたちが主体的に学ぶことのできるような授業展開、ノート指導などを工夫する。また、聞いたり、話したりする活動を積極的に取り入れることで、結果だけでなくその過程も価値づけする。
- ・自尊感情を高めるために個人で考えをもつ時間、少人数での意見交流、全体での交流と段階を経ることで、児童が自信をもって活動できるようにし、自己有用感を高める。
- ・学習習慣の定着を促すため、宿題の仕方や家庭学習について、家庭との連携を促す。
- ・規範意識を高めるために、ルールやマナーについて教育活動全体を通し、学校全体で統一した指導を継続的に行う。

《チャートの特徴》

国語・算数の学習状況では、知識・活用共に全国平均を上回っている。中でも、活用のポイントが特に高いが、正答率の分布の幅が広く確実な定着には至っていない。学習への関心が国語・算数共に全国平均を下回り、特に算数の関心意欲が低い結果となった。また、学習や生活状況についての大半の項目が全国平均を大きく下回っている。特に、学習習慣に関する質問への肯定的回答が低い結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・江戸川っ子家庭ルール取り組みや生活点検表を活用し、生活習慣の見直しを家庭に呼びかける。
- ・各種お便りを通して、子どもたちの成長や課題を家庭に周知し、学校と家庭の両面から統一した指導を行う。